

2005年4月19日(火)

教育・文化・科学を考える
——「師を囲む会」開催にあたってのごあいさつ——

開倫ユネスコ協会
会長 林 明夫

1. はじめに

本日はお忙しい中、開倫ユネスコ協会の第1回「師を囲む会」にお集まり頂きありがとうございます。日頃は開倫ユネスコ協会の活動に御理解、御協力を賜り、有難く感謝申し上げます。お陰様で開倫ユネスコ協会は少しずつですが活動を重ねることができました。

2. 「師を囲む会」とは

さて、開倫ユネスコ協会ではこの度、「師を囲む会」を随時開催させて頂くことに致しました。ユネスコ(UNESCO)は、国際連合教育・文化・科学機関の略で、「心の中に平和の砦を築こう」とのユネスコ宣言のもとに、教育や文化、科学の促進を通じて平和の実現を目指すものであります。開倫ユネスコ協会でのこの度開催させて頂く「師を囲む会」では、教育・文化・科学への理解を深め、平和な世界に一步でも近づくために、各分野で御活躍なさっている師と仰ぐべき先生方をお招きして、皆様とともに「平和の実現」について考えたく思います。

3. 「東照宮と現代の躰(しつけ)教育」

- (1) 第1回は、日光東照宮の禰宜(ねぎ)で教学室長でもあられる高藤晴俊先生をお招きして「東照宮と現代の躰教育」と題したお話を賜ることになりました。高藤先生には、お忙しい中御講演を賜り、有難く感謝申し上げます。
- (2) 現代の教育に最も必要なものの一つは、年齢相応のものごとの善悪の判断基準をしっかりと身に付けるという意味での「規範教育」、とりわけ「躰教育」であると、私は考えます。「躰」の具体的内容としては、「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」と「敬語表現を含む言葉遣い」であるとも考えています。その際最も参考にすべきは、それぞれの文化が育んだ歴史や伝統文化、古典ではないかと思えます。
- (3) 本日の高藤先生の御講演から、「東照宮」が育んだ文化を通じて「現代の躰教育」とは何であるかを皆様とともに考えさせて頂きたく思います。

4. おわりに

このような形で第1回の「師を囲む会」が開催できましたことを、高藤先生はじめ皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

感謝